

財団法人

日本分析センター

■第4四半期報■

April 2008 No. 28

平成19年度放射能分析確認調査 技術検討会の開催

平成20年3月25日（火）、東京国際フォーラムにおいて、47都道府県の環境放射能調査担当者等の情報交換の場として標記技術検討会を、136名の参加を得て開催しました。

開会にあたり、木野正登 文部科学省科学技術・学術政策局原子力安全課防災環境対策室長より、データの信頼性確保が国民の安全・安心につながることで、緊急時の迅速な対応には常日頃の技術力の維持、情報交換を続けていくことが重要である、との挨拶がありました。

続いて、19年度に実施した放射能分析確認調査結果の総括として、各都道府県における環境放射能分析・放射線測定は適切に実施され、正確な調査データが得られていることが確認できたとの報告がありました。

また、放射能分析確認調査ワーキンググループの各委員からは、データの信頼性確保という質の保証に本調査が貢献していること、万一不適合が発生した際の対策を文書化・記録し継承することが大切であること、不確かさは小さいほど良いということではなく、種々の工程における要素を適切に評価することが重要である等のコメントがありました。

午後は、日常の環境放射能調査で得られた成果や最近話題になったことなどの研究発表5件、

トピック4件が報告されました。ここではタイトルを紹介いたします。

- ・環境試料中のストロンチウム調査について
- ・サメに着目した放射能レベルの調査研究について
- ・モニタリングカーによる空間放線量率の走行測定
- ・ゲルマニウム半導体検出器を用いた大気中浮遊じんの放射性核種調査
- ・ ^7Be を用いた都市部の光化学オキシダントに占める成層圏 O_3 の寄与の評価
- ・環境放射線モニタリング指針（案）について
- ・放射能測定法シリーズの整備状況について
- ・新潟県中越沖地震における環境放射線モニタリング
- ・IAEA技能試験に参加して

また、富永健 東京大学名誉教授による「大気の地球環境問題－オゾン層破壊と地球温暖化－」と題した講演がありました。

閉会にあたり、富永健 精度管理検討委員会委員長から、分析・測定技術の一層の向上が確認できた、この技術力を継続するには組織的な継承が必要であるとの所見が述べられました。

（分析業務部 中山一成）

平成19年度文部科学省原子力防災訓練に参加して

平成 20 年 2 月 1 日（金）に、平成 19 年度文部科学省原子力防災訓練が開催されました。

この訓練は、文部科学省が所管する原子力施設における原子力災害の発生に備え、文部科学省原子力防災関係職員の緊急時対応能力の向上を図り、かつ応急対策を迅速・的確に行える体制を構築するため、毎年開催されるものです。

今年の訓練は、独立行政法人日本原子力研究開発機構の JRR-3 原子炉施設を対象とし、文部科学省非常災害対策センター（EOC）及び茨城県原子力オフサイトセンター（OFC）において、国、地方公共団体、文部科学省の関係機関、原子力事業者等が参加しました。当センターからは、EOC 放射線班の班員として、岸本が参加しました。

今回は、文部科学省が霞が関の中央合同庁舎

第 7 号館に移転したため、今年 1 月から運用を開始した新しい EOC を使った初めての訓練となりました。

訓練は、JRR-3 の一次冷却系燃料事故モニタの値が上昇して、原子炉が自動停止、排気筒の放射性物質放出濃度が原災法第 10 条事象に該当するレベルに達し、その後、原災法第 15 条段階に至るという想定で、初動対応訓練、防護対策の事前検討訓練、情報共有に係る訓練、広域対応訓練、防災関係設備・機器の運用訓練が行われました。

今回の訓練では、各機能班内の役割を明確にしたので、より正確で迅速な対応ができるようになりました。

（企画室 岸本武士）

平成20年度原子力・放射線安全管理功労表彰について

原子力・放射線安全管理功労表彰は、放射性同位元素等及び核原料・核燃料物質等の取扱い、試験研究炉等の運転等における安全確保、環境放射能・原子力防災対策の向上又は核物質管理のために尽力して優れた成果を上げた個人又は事業所等を表彰することにより、関係者の更なる意欲の向上と原子力の安全確保及び核物質管理に対する国民の理解の増進に資することを目的としています。

本表彰は、(財)原子力安全技術センター及び(財)日本分析センターが主催し、文部科学省の後援、(財)核物質管理センター、(社)日本アイ

ソトープ協会及び放射線障害防止中央協議会の協賛を得て、平成 15 年度から実施しています。

平成 19 年度原子力・放射線安全管理功労表彰は、平成 19 年 11 月 8 日（木）に虎ノ門パストラルにおいて、原田令嗣文部科学大臣政務官、鈴木篤之原子力安全委員会委員長、田中俊一原子力委員会委員長代理、中村尚司放射線審議会会長等関係者が出席し、表彰式及び表彰記念パーティーを開催し、受賞者には文部科学大臣賞が贈られました。

環境放射能対策功労部門は、平成 15 年度から毎年 2 名の方が受賞しており、平成 19 年度は、京都府保健環境研究所の藤波直人氏及び岡山県環境保健センターの道廣憲秀氏が受賞しました。

平成 20 年度原子力・放射線安全管理功労表彰は、6 月中旬頃に関係機関に推薦募集を行い、平成 20 年 11 月 7 日（金）に表彰式を開催する予定です。

6 月中旬頃に文部科学省の「原子力・放射線の安全確保ホームページ」に、平成 20 年度原子力・放射線安全管理功労表彰の推薦要領が掲載される予定です。

貴機関に候補者がおられましたら、是非ご推薦いただけますようお願い申し上げます。

（企画室 田中博幸）



平成19年度原子力・放射線安全管理功労表彰において、原田令嗣文部科学大臣政務官から表彰状を授与される岡山県環境保健センターの道廣憲秀氏

平成20年度環境放射能分析研修コースのお知らせ

(財)日本分析センターでは、環境放射線(能)モニタリングに従事する実務担当者を対象に、環境放射能分析・測定に関する技術と知識の習得を目的とした「環境放射能分析研修」を実施しています。

この研修は、①文部科学省放射能測定法シリーズに準拠、②実習が主体、③コンピュータ支援教育(CAI)学習システム及び放射線計測シミュレータの活用が大きな特徴です。当センターが持つ高い技術と長年の経験に基づく講義・実習により、短期間で実務に直結した技術と知識を身に付けることができます。

1. 開講コースと内容

開講する研修コースは都道府県対象が15コースで、「入門・基礎」と「専門」に分かれています。また、民間機関対象は2コースです。

入門・基礎コースは新しく環境放射線(能)モニタリングに携わる方を、また、専門コースはそれぞれの業務を担当し、放射線の知識をお持ちの方を対象としています。

なお、平成20年度は、一部の専門コースにつ

いて、平常時のモニタリングだけでなく、原子力緊急事態の発生時における対応の講義・実習を取り入れることとし、コース名も変更しました。

各コースの日程、定員等は、下表のとおりです。また、当センターのホームページの「研修情報」(<http://www.jcac.or.jp/study.html>)において、各コースの研修内容を確認することができます

2. 研修日程について

都道府県における原子力防災訓練等の日程との重なりを避けるために、研修コースの開催時期を大幅に変更しましたので、申込みの際には日程をご確認下さい。

3. 申込み方法

分析業務部(研修担当)〔電話:043-424-8663、FAX:043-423-4071〕に申込み下さい。また、当センターのホームページの「研修情報」からも申込みができます。

なお、受講決定後の取消しは、同研修コースを申込み受講できなかった方に迷惑となりますので、避けていただくようお願いいたします。

1. 都道府県対象

コース名		日数	研修日程	定員
入門・基礎	環境放射線データベース活用と線量推定－平常時及び緊急時－ (旧:環境放射線データベース活用の基礎)	2	平成20年5月8日(木)～5月9日(金)	8
	環境放射能分析・測定の入門	5	平成20年5月12日(月)～5月16日(金)	10
	環境放射能分析・測定の基礎	8	平成20年5月20日(火)～5月29日(木)	10
専門	環境試料の採取及び前処理法－平常時及び緊急時－ (旧:環境試料の採取及び前処理法)	4	平成20年4月22日(火)～4月25日(金)	8
	積算線量測定法	4	平成20年6月3日(火)～6月6日(金)	8
	Ge半導体検出器による測定法(第1回)	7	平成20年6月17日(火)～6月25日(水)	10
	放射性ストロンチウム分析及び迅速分析法 (旧:放射性ストロンチウム分析法)	9	平成20年6月30日(月)～7月10日(木)	6
	放射性ヨウ素測定法－緊急時対応－	3	平成20年7月23日(水)～7月25日(金)	8
	トリチウム分析及び迅速分析法(旧:トリチウム分析法)	4	平成20年7月29日(火)～8月1日(金)	8
	α放射体分析及び迅速分析法	7	平成20年8月19日(火)～8月27日(水)	5
	Ge半導体検出器による測定法(第2回)	7	平成20年9月2日(火)～9月10日(水)	10
	Ge半導体検出器による測定法－緊急時対応－	4	平成20年9月16日(火)～9月19日(金)	8
	環境γ線量率測定法	5	平成20年9月29日(月)～10月3日(金)	10
	環境放射線モニタリングにおける線量評価－平常時及び緊急時－ (旧:線量推定及び評価法)	5	平成20年10月6日(月)～10月10日(金)	12
	環境放射線量測定法－緊急時対応－	3	平成20年10月15日(水)～10月17日(金)	8

2. 民間機関対象

コース名		日数	研修日程	定員
専門	放射性ストロンチウム分析法	9	平成20年7月7日(月)～7月17日(木)	8
	Ge半導体検出器による測定法	5	平成20年8月4日(月)～8月8日(金)	10

年月日	環境放射能調査に係る文部科学省、自治体、日本分析センター等の行事
20 1 4	仕事始め
21	第2回環境放射線情報収集公開委員会
22	第16回原子力施設等防災専門部会（原子力安全委員会）
25	福島県原子力センター3名来訪
28	第2回環境放射線モニタリング及び放出源モニタリングに係る調査技術検討会
30	第2回放射能分析確認調査ワーキンググループ
2 1	文部科学省原子力防災訓練（於：日本原子力研究開発機構）
6	第3回温排水等により飼育した海産生物に関する放射能調査及び評価検討委員会
15	第3回環境放射線モニタリング及び放出源モニタリングに係る調査技術検討会
20	環境省環境放射線等モニタリング説明会（於：当センター）
21	愛媛県八幡浜地方局健康福祉環境部環境保全課2名来訪
25	第20回原子力艦放射能調査専門家会合（文部科学省）
	第3回放射能分析確認調査ワーキンググループ
3 4	平成19年度第2回理事会・評議員会
5	第2回ヨウ素129分析法等ワーキンググループ
13	第19回放射線審議会基本部会（文部科学省）
	環境放射線等モニタリングデータ評価検討会
	海上保安庁海洋情報部環境調査課海洋汚染調査室3名来訪
14	第2回精度管理検討委員会
17	第3回環境放射能水準調査検討委員会
21	第7回原子力防災検討会（文部科学省）
25	平成19年度放射能分析確認調査技術検討会
26	第2回ラドン調査等の実施に係るワーキンググループ

トピック

◆放射能測定法シリーズに新測定法追加

文部科学省放射能測定法シリーズに、シリーズ33「ゲルマニウム半導体検出器を用いたin-situ測定法」（平成20年3月制定）及びシリーズ34「環境試料中ネプツニウム237迅速分析法」（平成20年3月制定）が追加されました。

この2シリーズは、文部科学省ホームページ「日本の環境放射能と放射線」の「調査結果を閲覧する」（<http://www.kankyo-hoshano.go.jp/>）からダウンロードできます。

◆温泉成分分析業務開始

当センターは、平成20年4月から、温泉成分分析業務を開始しました。

温泉成分分析は、温泉法により都道府県に登録した分析機関が行うことになっています。当センターは、3月5日付けで千葉県に登録されました（登録番号：千葉県登録第4号）。温泉成分

のうち塩素イオン、硫酸イオン、硝酸イオン等は、イオンクロマトグラフ（写真参照）により分析することができます。

温泉成分分析のご依頼及びお問合せは、当センター企画室までお願いします。

電話 043-424-8661

FAX 043-423-5326



分析測定装置（イオンクロマトグラフ）

財団法人 日本分析センター第4四半期報

発行日 平成20年4月10日

編集発行 財団法人 日本分析センター

April 2008 No.28

〒263-0002 千葉県稲毛区山王町295番地3

TEL (043) 423-5325 FAX (043) 423-5326

URL <http://www.jcac.or.jp/>